

臨床研究「脊髄くも膜下穿刺針の違いによる穿刺部位からの漏出頻度の検討：CT 脊髄造影検査時における比較」について

姫路赤十字病院麻酔科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究は姫路赤十字病院倫理委員会の承認を経て実施しております。

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

① 研究対象

2021年11月1日～2022年10月30日の間に麻酔科でCT脊髄造影検査を受けた方。

② 研究の意義・目的・方法

CT脊髄造影検査は、脳脊髄液漏出症の診断に必須の検査の一つですが、検査によって（硬膜穿刺を必要とするため）、穿刺部位からの脳脊髄液漏出やもとの病気の症状悪化が懸念されます。

CT脊髄造影検査に用いる針は、針の先端の形状で2種類（カッティング針と非カッティング針）に分類され、どちらもよく使用されています。針先の形状の違いで穿刺手技の簡便さや硬膜穿刺する時の針穴の形状が異なることが分かっています。当科ではカッティング針を中心に使用してきましたが、現在は非カッティング針を使用しています。

今回、CT脊髄造影検査時の硬膜穿刺部からの造影剤の漏れが、穿刺針の違いによって生じるか、すでに検査されたCT画像を用いて検討します。針の違いで造影剤の漏出に違いがある場合は、針を変えることで検査による病気の悪化や不要な治療機会を減らせる可能性があります。

③ 研究機関・代表研究者名

姫路赤十字病院 麻酔科 石川 慎一（代表研究者）

④ 保有する個人情報に関する利用目的

個人情報は本研究のために使用し、学会発表や論文投稿を予定します。

⑤ 保有する個人情報の開示手続き

下記連絡先までお問い合わせいただければ、遅滞なく回答いたします。

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情などの連絡先

姫路赤十字病院

〒670-8540 姫路市下手野 1-12-1

（所属・代表研究者）姫路赤十字病院 麻酔科 石川 慎一

（その他）姫路赤十字病院 麻酔科ペインクリニック外来担当医

平日9時から17時 079-294-2251（病院代表経由で呼び出し）